

ゾーニング計画・諸室概要

1. 設計コンセプト

■地域の誇りとなる『学習と体験の場』

自然とともに生きてきた縄文人のくらしやこころにふれ、実際に体験し、学習することで郷土愛や誇りを醸成する場づくりをめざします。学校の課外授業で来館するだけでなく、市民が日常的に利用する施設・愛される施設となることが何よりも大切と考えます。好きな時に訪問し、好きなだけいられ、さらに居心地の良い、そんな近づきやすい施設を目指します。

■貴重な文化財を徹底して守り、未来に伝える

浸水、火災、地震に対する対策を徹底します。特に浸水対策については、基本的な地盤面を1.0～1.5mあげ、さらに床レベルを1.0mあげます。万が一浸水被害にさらされたときも想定し、被害を最小限にとどめる工夫など、最大限の配慮を行います。

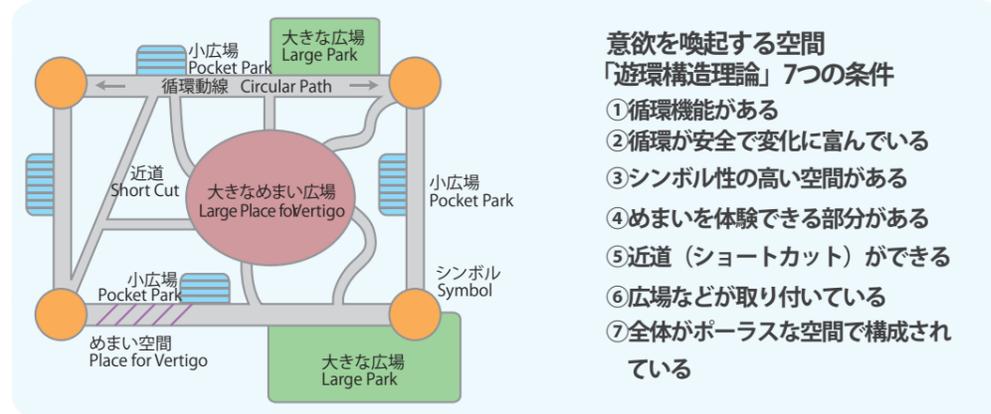
■文化財を活用した『文化観光拠点』

— 地域の歴史とつながり、誰もが発信できるミュージアム

東名遺跡の魅力や地域の歴史を市民自らが世界に向けて発信することが出来る仕組みをつくりまします。近隣史跡や、文化施設、全国の縄文遺跡とネットワークをつくり、広く、情報発信を行い、集客力の高い施設を目指します。

■交流・意欲を喚起する遊環構造理論の適応

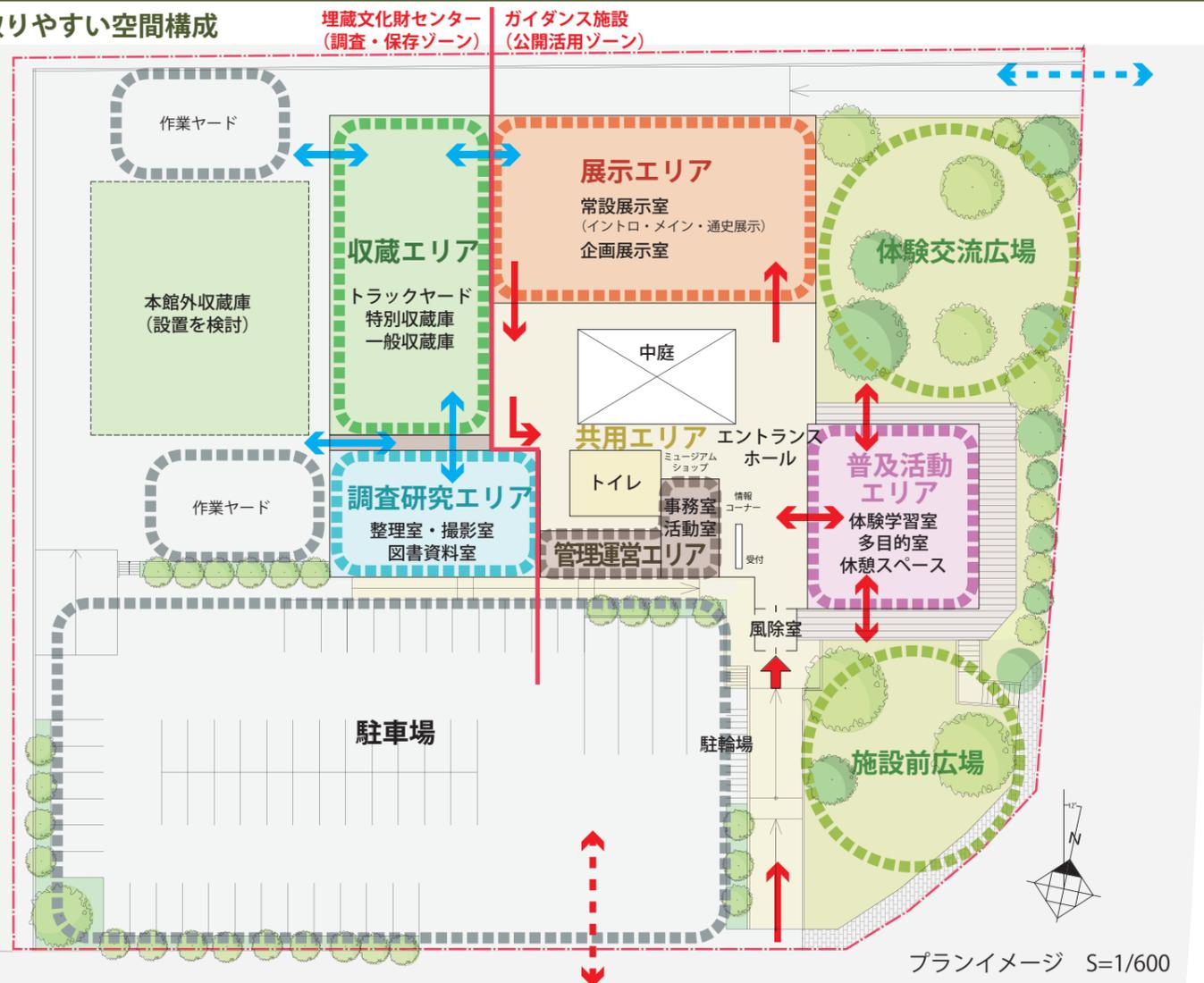
交流しやすく意欲を喚起する空間には条件があります。遊びに来て楽しい、歩き回れる空間になっていること、他者の活動に興味を持ってもらう設えも必要です。「遊環構造理論」を適用し、交流意欲を喚起する空間を実現します。



2. ゾーニング・動線計画

■3つの屋外広場で分節する連携の取りやすい空間構成

埋蔵文化財センター（調査・保存ゾーン）、ガイダンス施設（公開活用ゾーン）を明確に区分しながら、3つの屋外広場を介して連携が取りやすく、交流しやすい空間構成とします。来館者動線と資料動線が交錯しない動線計画とします。



3. 諸室概要・全体概略面積

諸室概要と全体概略面積を以下に示します。

本館内

エリア/諸室名	概要	全体面積 (㎡)	
収蔵	一般収蔵庫	I種資料の収蔵と整理中資料の仮保管も行う。将来的な資料の増加に備えた広さを確保する。一部で収蔵展示も行う。	約2,000
	特別収蔵庫	重要文化財など温湿度を常に測定、管理する必要がある重要な資料を収蔵する。	
	前室	収蔵庫への搬出入の際の慣らし(シーリング)に必要。	
	荷解室	貸借資料や収蔵品等の搬出・搬入を行う際に必要。	
	トラックヤード	貸借資料や収蔵品の搬出・搬入を行う際に物品の安全性を確保するために必要。	
調査研究	整理室	発掘調査で出土した遺物の復元・実測・整理・収納、調査記録の整理、報告書作成作業を行う。	
	撮影室	報告書及び展示図録などに必要な遺物写真撮影を行う。	
	図書資料室	寄贈図書、刊行図書及び発掘調査に関わる図面・写真資料等を保管する。	
展示	常設展示室	【イントロ展示】貝塚立体剥ぎ取りを活かした演出で、遺跡の迫力を伝える。 【メイン展示】重要文化財が展示の中心となるため、温湿度管理ができる空間を確保する。実物資料を使って、縄文時代のくらしをリアルに伝える。 【通史展示】有明海と佐賀平野をテーマとした通史展示、佐賀特有の文化の原点が東名遺跡にあることを理解。	
	企画展示室	年数回の展示更新を想定。可変性のある展示が可能となるように、可動展示ケース・可動壁等の導入を検討する。	
	展示準備室	展示を行う仕器の保管と展示に関する簡易的な作業を行う。	
	多目的室	体験学習や講演会・講座等の多目的な学習や施設に関する様々な活動スペースとして使用。	
	体験学習室	水道・加熱設備を備えた空間で、主に体験学習に使用する。	
	倉庫	多目的室、体験学習室の多角的な利用に備え、家具等を収納。	
普及活動	憩いスペース	来館者の休憩や憩いのスペース。	
	エンタランスホール	来館者を迎える空間で、市内の観光資源をはじめとした様々な情報発信も行う。	
共用	情報発信スペース	市内の文化遺産情報を発信する。「山麓文化エリア」のガイダンス、見学ルートの紹介や「山間文化エリア」「平野文化エリア」へ誘導する。ホール内に設置する。	
	廊下等	来館者や館内関係者が共同使用し便益施設。	
	トイレ	来館者や館内関係者が共同使用する便益施設。	
	エンタランスホール内多目的利用スペース	様々な展示や情報発信が行える回廊空間や見せる収蔵庫・整理室コーナー、キッズコーナーや図書コーナー、ミュージアムショップの設置等を検討。	
管理運営	事務室	施設の管理・運営や来館者への対応、協議・打合せを行う。	
	会議室兼活動室	市民サポーターなどの作業室・休憩室・控室・会議室。	
	機械室	照明や空調など、施設の運用に欠かせない設備の管理を行う。	

屋外

バックヤードスペース	搬入前の準備を行う作業スペース。本館外収蔵庫の設置を検討。	約6,000
中庭	休憩スペース、イベント会場等で使用を検討。	
施設前広場	史跡地との結節点。休憩やイベントスペースとして活用。	
体験交流広場	屋内と連動した体験活動が行えるスペース。	
駐車場・通路	普通車50台、大型車3台程度の駐車スペースを確保。関係者通路を北側に設置。	

各エリアの計画・検討状況

■収蔵エリア

一般収蔵庫

天井空間を有効活用する中2階床構造や、高層型収蔵棚、移動式集密収蔵棚を用いた効率の良い収蔵計画を検討します。また、本館外収蔵庫の設置を含め、30年後まで増加し続ける資料を収蔵することが可能なスペースを検討します。



中2階床構造 収蔵棚 例

特別収蔵庫

重要文化財を収蔵するための適切な保存環境を有する収蔵計画を検討します。



無機質系調湿パネル内装例

■調査研究エリア

整理室

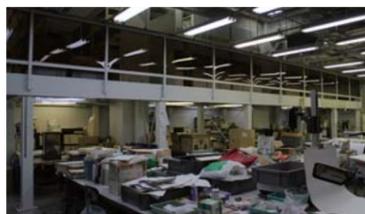
発掘調査で出土した遺物の整理・復元・実測、調査記録の整理、報告書作成作業を行います。復元室と実測室の2室構成とします。

撮影室

報告書及び展示図録などに必要な遺物の写真撮影を行います。

図書資料室

寄贈図書、刊行図書および発掘調査に関わる図面・写真資料等を保管します。屋根裏部分の余剰の空間を利用し、30年後まで増加し続ける資料を収蔵することが可能なスペースを検討します。



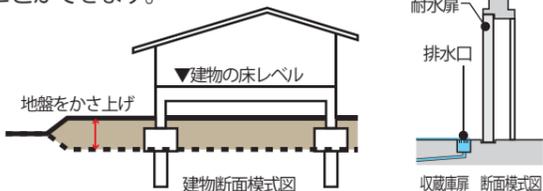
屋根裏の余剰の空間を利用した図書資料室 例



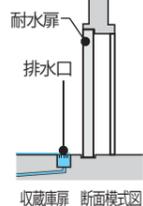
復元室 例

■浸水対策

地盤をかさ上げし、さらに高くすることによって、建物の床レベルを調整池の堤防高よりも高くします。また、南側駐車場エリアは、盛土は最小限に抑え、現況レベルを保持することによって、集中降雨時には、一時的に水を溜めることができます。



建物断面模式図



収蔵庫 断面模式図

■展示エリア

常設展示室（イントロ・メイン・通史展示）

更新性に配慮し、可能な限り矩形のシンプルな空間構成とします。

企画展示室

壁面には展示ショーケースを設け、催し物ごとに行われる展示の入れ替えに対応できるように、移動展示パネルや照明設備の計画を検討します。



企画展示イメージ

体験交流広場（屋外）

土器づくり、編みかごづくり、火起こし、縄文食づくり等、屋内と連動した屋外活動プログラムのフィールドとして活用できる広場を検討します。



縄文体験のイメージ【体験交流広場】

中庭（屋外）

以下の理由から中庭の設置を検討します。

- ・各機能を繋ぐ中心的な屋外広場になり、施設全体の回遊性を高める。
- ・自然採光・自然換気等、自然エネルギーの活用を促進する。
- ・天候が良い時、テーブルと椅子を設置し、休憩スペースとして活用できる。
- ・屋外を利用した展示や、さまざまなイベント会場としても活用も可能。



中庭を利用したイベントイメージ

■普及活動エリア

多目的室

体験学習や講演会・講座等の会場として、また、イベントのないときは、休憩スペース、団体客用ガイダンススペースや雨天の食事スペース等、多目的に使いやすいように配慮します。



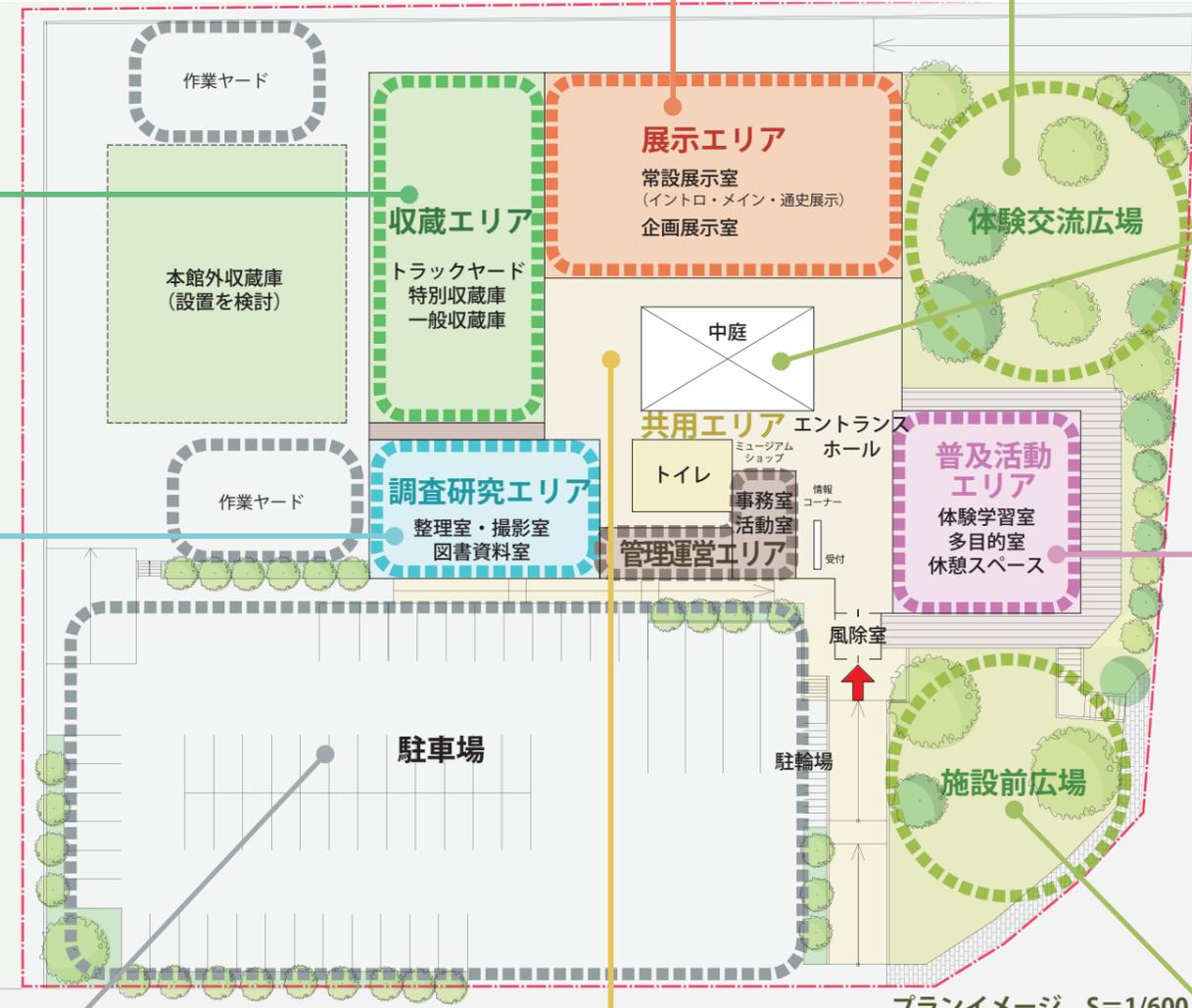
専門家のレクチャー【多目的室等】

体験学習室

縄文のものづくり体験等、体験を伴う講座の開催を行います。いつきても誰でも気軽に体験できるようなショートプログラムも検討します。



縄文ものづくり体験【体験学習室】



プランイメージ S=1/600

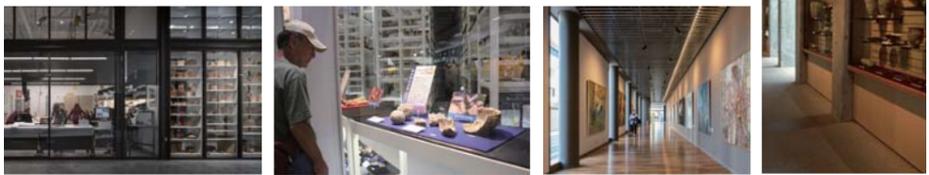
■駐車場エリア・作業ヤード

- ・エントランスへの近寄りやすさを考慮し、敷地南側に駐車場を集約します。
- ・普通車 50 台、大型車 3 台程度が駐車できるスペースを確保します。
- ・資料搬入時等、室内に入れる前の半屋外での準備作業ができるスペースを検討します。

■ギャラリー回廊・みる収蔵庫・みる復元室

施設まるごとミュージアム

- ・公開ゾーン全体は、行きどまりのない歩き回れる空間とし、そのルートには様々展示や情報を得られる仕掛けを検討します。
- ・収蔵庫や復元室の様子をガラス越しに見せる場所の設置も検討します。



みる収蔵庫・みる復元室 イメージ

パブリックゾーンの壁面を利用した展示イメージ

■施設前広場（屋外）

施設前広場は、史跡地へと移動する上での結節点になる広場です。休憩スペースから直接アクセスできるデッキテラスがあり、イベントにも活用しやすく計画します。



広場を利用したイベントイメージ

デッキテラスイメージ